

中小企業診断士試験



出る順診断士令和2年1次本試験解説



財務・会計



【令和2年度の講評】 “量と質のバランス”

1－1 講評

令和2年度の財務・会計は、例年に比べ難易度が高かった（合格率10.8%¹⁾）と思われる。一方、LEC 解答リサーチでは平均 59.4 点であり、学習の質が問われたと考える。

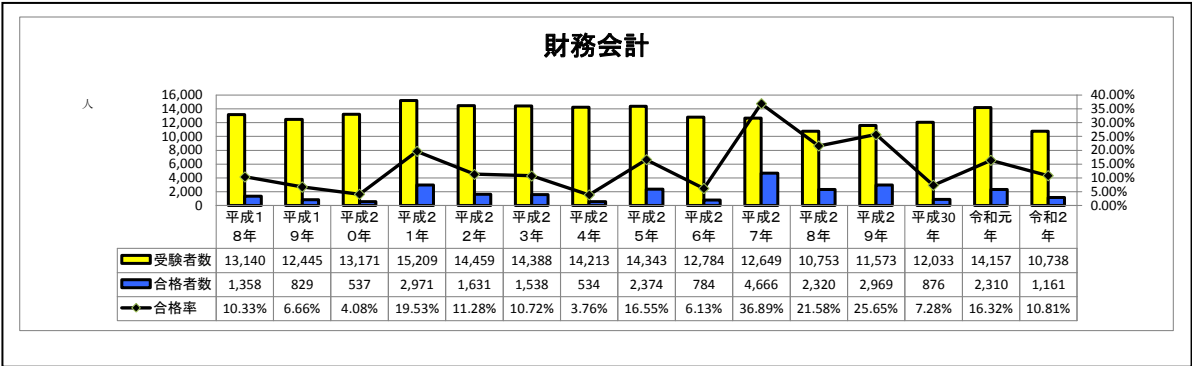
出題内容は例年とは違う傾向も多く、戸惑った受験者もいたと思われる。まずは出題分野であるが、これまでは、会計分野、財務分野とほぼ同じ出題数であったが、本年は会計分野から16問（小問レベル）、財務分野から9問（小問レベル）であり、会計分野からの出題が多かった。

つぎに計算問題と知識問題の割合である。例年はほぼ同じ出題数であったが、本年は計算問題10問、知識問題15問という構成となっていた。

論点として、初出題の論点が多かったこと（5問）、ほぼ10年ぶりの論点が2問であった。近年出題順が診断協会発表の「試験科目設置の目的と内容」と違う並びとなっており、今後この傾向には注意が必要である。

難易度は、基礎的な内容の問題や過去問ほぼそのままの問題もあり、全体正答率が60%以上の問題が12問（LEC 解答リサーチ）あった。第1問に取り組み難しい問題であり、解答順などアウトプット力も問われた。試験対策を十分に行ってきた受験生であれば合格点を獲得することは難しくなかったと思われる。

表 1 受験者数、合格者数の推移（財務会計）



¹ 一般社団法人 中小企業診断協会 中小企業診断士試験の情報より作成)

1-2 出題領域

全体的には、概ねバランスの良く出題されているが、大分類の領域で出題されていない「(5)利益と資金の管理」、「(6)キャッシュフロー (CF)」の2領域は昨年も出題がみられなかった。

原価計算は、最近では標準原価計算の出題が増えてきていたが、本年度は、活動基準原価計算 (ABC 分析) が出題された、今後注意が必要な傾向である。

診断協会発表の出題分野」から見た「今年度(R02)の出題分野」の分析

1次試験(財務・会計)出題分野 ※診断協会発表の「試験科目設置の目的と内容」より。			R02年1次(財務・会計) 問題	
大分類	小分類			
会計	(1)簿記の基礎	簿記原理 会計帳簿 決算処理	■	■第01問 売上原価
	(2)企業会計の基礎	損益計算書 貸借対照表 CF 計算書 企業結合 会計ディスクロージャー 税効果会計	□	■第02問 貸倒引当金
			■	■第03問 有価証券の評価
			■	■第04問 配当時の積立
			■	■第05問 減損会計
			■	■第06問 吸収合併(のれん)
財務	(3)原価計算	原価概念 原価計算の種類と方法	□	■第07問 リース取引
	(4)経営分析	経営比率分析 損益分岐点分析 利益増減分析	■	■第08問 無形固定資産の会計
			■	■第09問 仕訳(仮払消費税)
			■	■第10問 原価計算(直接労務費)
	(5)利益と資金の管理	利益計画 予算・実績差異分析 資金繰りと資金計画	□	■第11問 経営比率分析
			□	■第12問 経営比率分析(感度分析)
			□	■第13問 キャッシュフロー計算書
	(6)キャッシュフロー(CF)	CFの種類と算出 CF マネジメント	□	■第14問 活動基準原価計算 (ABC 分析)
	(7)資金調達と配当政策	資金調達の形態 資本コスト 配当政策 最適資本構成	□	■第15問 オプション取引
			■	■第16問 マイナス金利
			■	■第17問 貨幣の時間価値
	(8)投資決定	貨幣の時間価値と割引 CF 投資評価基準 不確実性下の投資決定	■	■第18問 効率的市場仮説
			□	■第19問 ポートフォリオ
財務	(9)証券投資論	ポートフォリオ理論 資本市場理論	■	■第20問 債権価値(社債)
	(10)企業価値	株価の算定 企業価値評価モデル 企業合併・買収の企業評価	■	■第21問(1) CVP 分析
			□	■第21問(2) CVP 分析
			■	■第22問 CAPM
	(11)デリバティブとリスク 管理	リスクの種類 オプション取引 先物取引 スワップ	■	■第23問 設備投資の経済性
			□	■第24問 企業価値(MM理論)
-	(12)その他財務・会計に 関する事項	-	-	

※下線は、計算問題であることを示す。
(25 問中 10 問が計算問題だった。)

1－3 正答率一覧

正答率を確認すると、必達(全体正答率が60%以上)：15問、新しい論点：5問(見慣れない出題形式：2問を含む)、合否を分けた問題：3問、難易度が高い問題：3問であった。過去にほぼ同じ出題が確認できる問題が8問あった。

通し 番号	問題	設問	回答	正答率				分類				
				≥6割	全体	<6割	差	必達	合否を分けた	同様過去問	New	難問
1	第1問	-	エ	31.4%	21.3%	7.9%	23.5%				△	○
2	第2問	-	エ	69.3%	54.3%	34.2%	35.1%		○			
3	第3問	-	ア	64.7%	50.6%	31.6%	33.1%					
4	第4問	-	ウ	81.7%	65.5%	43.9%	37.8%		○			
5	第5問	-	ウ	79.1%	74.5%	68.4%	10.7%	○				
6	第6問	-	イ	62.1%	53.9%	43.0%	19.1%					
7	第7問	-	ウ	74.5%	69.7%	63.2%	11.4%	○				
8	第8問	-	ウ	60.8%	53.2%	43.0%	17.8%				○	
9	第9問	-	ア	83.0%	71.2%	55.3%	27.7%				○	
10	第10問	-	イ	74.5%	60.3%	41.2%	33.3%					
11	第11問	-	エ	95.4%	80.1%	59.6%	35.8%	○				
12	第12問	-	エ	71.9%	56.6%	36.0%	35.9%		○			
13	第13問	-	ウ	56.9%	53.6%	49.1%	7.7%					
14	第14問	-	エ	49.0%	44.2%	37.7%	11.3%				○	
15	第15問	-	イ	81.0%	74.2%	64.9%	16.1%	○				
16	第16問	-	エ	55.6%	47.2%	36.0%	19.6%				○	
17	第17問	-	イ	92.2%	82.4%	69.3%	22.9%	○			△	
18	第18問	-	ア	47.1%	39.0%	28.1%	19.0%				○	
19	第19問	-	イ	92.2%	85.4%	76.3%	15.8%	○		○		
20	第20問	-	ア	68.0%	55.4%	38.6%	29.4%					
21	第21問	設問1	ウ	94.8%	90.3%	84.2%	10.6%	○		○		
22		設問2	ア	85.6%	70.8%	50.9%	34.7%	○		○		
23	第22問	-	イ	28.8%	23.6%	16.7%	12.1%					○
24	第23問	-	エ	79.7%	62.5%	39.5%	40.3%		○			
25	第24問	-	エ	58.8%	45.3%	27.2%	31.6%				△	

1-4 類似出題

「本試験過去問(R01 以前)」から見た「今年度(R02)の出題分野」の分析

R02 1次問題 番号	出 題 分 野	類 似 の 本 試 験 過 去 問
1	売 上 原 価	<u>H28-1, H27-1</u>
2	貸 倒 引 当 金	<u>H23-2</u>
3	有 価 証 券 の 評 価 損 益	<u>H21-3</u>
4	配 当 額	<u>H29-3, H28-5, H27-4, H25-2</u>
5	減 損 会 計	<u>H29-7, H23-3</u>
6	の れ ん	<u>H28-3, H25-6, H23-5</u>
7	リ ー ス 会 計	<u>H30-6, H28-4, H26-6, H25-13, H22-3</u>
8	ソ フ ト ウ ェ ア の 会 計 処 理	
9	仕 訳	
10	原 価 計 算 (直 接 労 務 費)	<u>R01-9, H29-9, H29-11, H28-7, H25-10</u>
11	経 営 比 率 分 析	<u>R01-11, H29-11, H28-9, H26-9, H25-5, H23-9</u>
12	経 営 比 率 分 析 (感 度 分 析)	<u>H29-12, H26-10</u>
13	キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー 計 算 書	<u>R01-12, H30-12, H25-4</u>
14	活 動 基 準 原 価 計 算 (A B C 分 析)	
15	オ プ シ ョ ン 取 引	<u>R01-14, H29-25, H24-21</u>
16	マ イ ナ ス 金 利	
17	設 備 投 資 の 経 済 性 (年 金 原 価 係 数 と 福 利 原 価 係 数)	<u>R01-16, H27-15</u>
18	効 率 的 市 場 仮 説 (超 過 収 益 率)	
19	ポ ー ト フ ォ リ オ	<u>H30-18, H29-16, H28-15</u>
20	証 券 価 値 (社 債)	<u>R01-16, H27-15</u>
21(1)	損 益 分 岐 点 売 上 高	<u>H27-10</u>
21(2)	損 益 分 岐 点 比 率	<u>H22-9</u>
22	C A P M	<u>R01-15, H30-17, H29-23, H22-17</u>
23	設 備 投 資 の 経 済 性 (将 来 C F)	<u>H29-15, H25-18, H24-13</u>
24	M M 理 論	<u>H29-17, H25-15</u>

5 年前以内の類題、6 年前以前の類題

1-5 重要問題

【問題】令和2年度 第2問

A社の決算整理前残高試算表は以下のとおりであった。貸倒引当金の仕訳として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

なお、当社では売上債権の残高に対し5%の貸倒れを見積もり、差額補充法を採用している。

決算整理前残高試算表（一部）（単位：千円）

現金預金	11,000	支払手形	3,000
受取手形	3,000	買掛金	16,000
売掛金	21,000	貸倒引当金	300
棚卸資産	16,000	借入金	17,000
建物	53,000	資本金	50,000

〔解答群〕

ア	(借) 貸倒引当金	300	(貸) 貸倒引当金戻入	300
	貸倒引当金繰入	1,050	貸倒引当金	1,050
イ	(借) 貸倒引当金	300	(貸) 貸倒引当金戻入	300
	貸倒引当金繰入	1,200	貸倒引当金	1,200
ウ	(借) 貸倒引当金繰入	750	(貸) 貸倒引当金	750
エ	(借) 貸倒引当金繰入	900	(貸) 貸倒引当金	900

【解答】

エ（配点4点）

正答率

54.3 %

【解説のポイント】

Focus テキスト 4-9 引当金

【問題】 令和2年度 第4問

B社は、定時株主総会において、繰越利益剰余金を原資として 6,000 千円の配当を行うことを決議した。なお、配当を行う前の資本金は 18,000 千円、資本準備金は 1,000 千円、利益準備金は 3,000 千円であった。

このとき、積み立てるべき法定準備金として、最も適切なものはどれか。

- ア 資本準備金：100 千円 利益準備金：300 千円
- イ 資本準備金：100 千円 利益準備金：600 千円
- ウ 利益準備金：500 千円
- エ 利益準備金：600 千円

【解答】

ウ（配点4点）

正答率

65.5 %

【ポイント】

Focus テキスト 5-4 純資産（株主資本等）の変動

【問題】 令和2年 第12問

自己株式を現金で取得し、消却したとする。他の条件を一定とすると、これによる財務比率への影響に関する記述として、最も適切なものの組み合わせを下記の解答群から選べ。

- a 固定比率は不変である。
- b 自己資本利益率は向上する。
- c 総資本利益率は不変である。
- d 流動比率は悪化する。

〔解答群〕

- ア a と b
- イ a と c
- ウ b と c
- エ b と d
- オ c と d

【解答】

エ（配点4点）

正答率

56.6 %

【解説のポイント】

Focus テキスト 2-2 利益率と回転率

【問題】 令和 2 年度 第 23 問**第 23 問**

当期首に 1,500 万円をある設備（耐用年数 3 年、残存価額ゼロ、定額法）に投資すると、今後 3 年間にわたって、各期末に 900 万円の税引前キャッシュフローが得られる投資案がある。税率を 30% とすると、この投資によって各期末の税引後キャッシュフローはいくらになるか。最も適切なものを選べ。

- ア 180 万円
- イ 280 万円
- ウ 630 万円
- エ 780 万円

第 23 問**【解答】**

エ（配点 4 点）

正答率

62.5 %

【解説のポイント】

Focus テキスト 3-5 タックスシールド

【問題】 令和2年度 第1問**第1問**

以下の資料に基づき、当期の売上原価として、最も適切なものを下記の解答群から選べ。

【資料】

期首商品棚卸高 100,000 円

当期商品純仕入高 750,000 円

期末商品棚卸高

	帳簿棚卸数量	実地棚卸数量	原 価	正味売却価額
A 商品	120 個	110 個	@ 1,200 円	@ 1,000 円
B 商品	80 個	70 個	@ 1,000 円	@ 1,100 円

なお、棚卸減耗損および商品評価損はすべて売上原価に含める。

〔解答群〕

ア 626,000 円

イ 648,000 円

ウ 663,000 円

エ 670,000 円

【解答】

エ（配点4点）

正答率

21.3 %

【解説のポイント】

Focus テキスト 4-7 棚卸資産の評価

1-6 正解選択肢

H18～R02 の正解選択肢の分布

		選 択 肢					合 計
		ア	イ	ウ	エ	オ	
年 度	H18(2006)	4問	7問	8問	7問	0問	26問
	H19(2007)	5問	6問	6問	8問	0問	25問
	H20(2008)	7問	7問	9問	4問	0問	27問
	H21(2009)	3問	11問	5問	6問	0問	25問
	H22(2010)	2問	9問	8問	5問	1問	25問
	H23(2011)	6問	9問	6問	3問	1問	25問
	H24(2012)	7問	3問	8問	7問	0問	25問
	H25(2013)	10問	6問	4問	6問	0問	26問
	H26(2014)	5問	5問	10問	5問	0問	25問
	H27(2015)	4問	4問	10問	6問	1問	25問
	H28(2016)	8問	4問	6問	7問	0問	25問
	H29(2017)	7問	4問	9問	4問	1問	25問
	H30(2018)	5問	5問	9問	6問	0問	25問
	R01(2019)	6問	7問	6問	6問	0問	25問
	R02(2020)	5問	6問	6問	8問	0問	25問
合計(問)		84問	93問	110問	88問	4問	379問
合計(%)		22.2%	24.5%	29.0%	23.2%	1.1%	100.0%

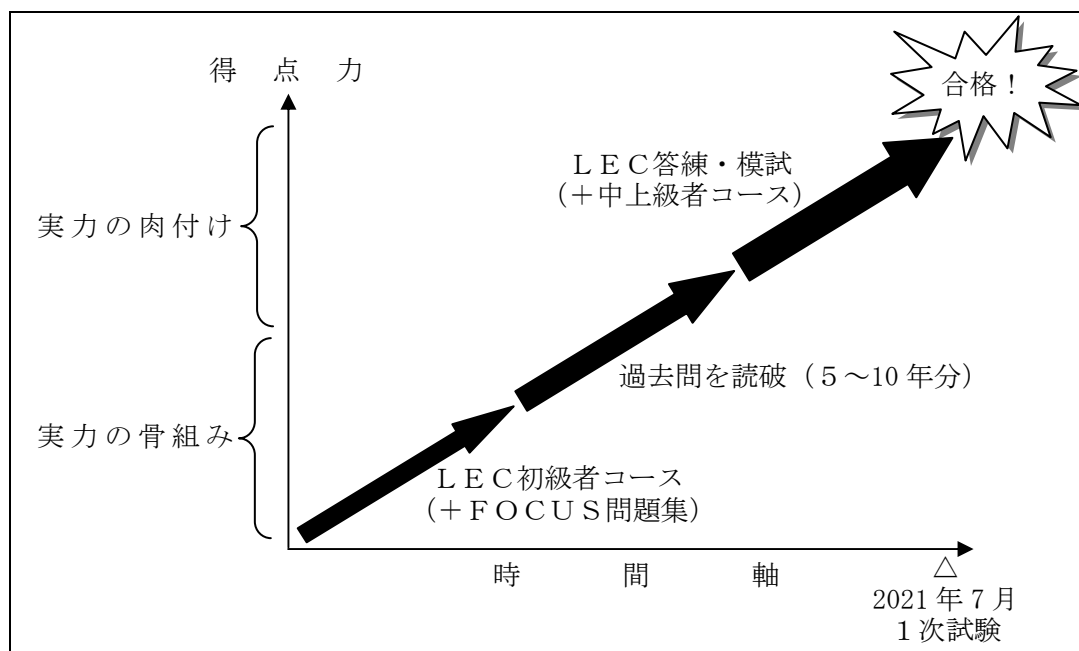
学習計画

自分の状況に応じた着実な学習が結局は近道！

診断士試験の1次試験は、相当に学習を重ねた受験生でも高得点（70、80 点以上）を獲得することが難しい試験である。このことは、圧倒的な「知識力」だけでも、巧みな「解答力」（思考力やテクニック）だけでも対応しきれないということを意味する。今年の「財務・会計」の試験は、例年に比べると難易度が高く、「知識力」と「解答力」を駆使することが合格圏得点を確保する重要なポイントであったと考える。また、難易度の低い年度であっても、高得点（70、80 点以上）を獲得する受験生の割合はそれほど多いわけではない。

このような試験で合格の栄冠を勝ち取るには、「知識力」と「解答力」をバランスよく身につけることが肝要であり、インプット学習（知識の蓄積）とアウトプット学習（解答力の習得）を、自分の状況に応じてバランスよく着実に行うことが、結局は合格への近道といえる。

具体的には、来年（令和3年）の1次試験²学習対策として、以下のような段階的な流れを想定し、自分にとって最も効果的な学習方法を探りたい。



以 上

² 令和3年度一次試験日程は、現時点でオリンピック開催が予定されていることから、7月とした。

中小企業診断士試験
出る順診断士令和2年1次本試験解説
財務・会計

(NL21011)

